



発行所 豊島区池袋三丁目 立教大学新聞学会 振替東京 70852 電話(833)0111(代)内線97 発行人 野口定男 毎月十五日発行

二年ぶり投票行わる法

本年度級委員選挙

法学部 ティーチン 過半数を獲得

昭和四〇年度クラス委員選挙が二年ぶりに行なわれた。経済・文・理・社会の各学部は立候補者が定員を越え、無投票選挙とされた。法学部は「全学連」支持の「全学連」が二〇名、「ティーチン」が二〇名、立候補した。この二派による対決という形で選挙が争われた。六月二日(水)から六月五日(土)までの四日間投票が行われた。投票開始の六月五日、三時より三時四十分の間に即日開票の結果、ティーチンが過半数を獲得し、全学連が二名、立候補者が四名の過半数をもってティーチングループの一応の一勝利に終わった。

選挙が告示された日から、両派の演説会や激しい文書戦が展開された。しかし学内全体では、当事者の意気込みに反して、さほどの盛り上がりは見られなかった。

六月三日(水)から六月五日(土)までの法学部選挙の開票の結果は次の通り。(TGはティーチン・グループ)

春木 良昭 (TG) 一四〇票
野名 隆之 (全派) 一三九票
次点
吉沢 勲 (全派) 一三八票
明賀 雄一 (TG) 一三八票

解説

なお、投票率は約三〇%。今回のクラス委員選挙の

ベースアップ闘争妥結

教職員組合

二月以来、降り込みも含めた数度にわたる大学当局と教職員との団体交渉はようやく妥結し、協定書の調印にこぎつけた。最終段階で、予算計上後の人件費の問題が交渉の焦点となった。

協定書の主な点は次の通りである。
①給与改訂について
②教職員、職員給、職員給の給与体系は四一年度に限り基本給プラス臨時手当、物別手当プラス手当とする。
③臨時手当、特別手当を基本給に含めるものとする。
④四一年度の給与交渉にあたっては、基本給にプラス臨時手当、特別手当の総額をもって基本給交渉の出発点とする。

(含臨時特別手当)
一、大学院修士課程修了直後の助手 三七八〇〇円
二、大学院職員 三三〇〇〇円
三、大学院職員 二五五〇〇円
四、高校生職員 三二九〇〇円

就職状況

好調なすべり出し

昨年よりかなりの伸び

日韓条約批准後の韓国への経済進出や、戦争終結後に見いだされたベトナム戦争の「特需」があることはいえ、未だに高度成長政策の破綻からくる深刻な不況を脱し切れぬ日本の経済状況のもとでの就職は、今年も、「深刻」の一語に尽きるという。

大企業は今年も大学の求人を出せる傾向にあり、一流会社への進出は困難な状況にあるといえる。九月一日現在、立教大学で

人事

町田教授(理)退職
教授は昭和二四年東大理学部物理科学科。二七年広島大講師を経て、三〇年本学助教、同三六年教授となる。なお退職後は京都大教授



写真は教職員組合のすわり込み闘争

間隔と意識について若干、検討してみよう。
「全学連」三年「全学連」支持派に指導されてきた立教大学クラス委員会が、現在一応の「成功」をおさめ、一定程度の運動の進展をみせている。いわゆる再建「全学連」のもとに集結し、わが学内においても「授業料値上げ反対闘争」、「学食値上げ反対闘争」なるもの、運動論的、組織論的、脆弱性ゆえに部分的勝利は勝ちとれたとしても根本的には敗北してしまつた。「あらゆる要求をもちよ」それを「よりよき学内生活」のために「クラス・サークル」での「民主的な討論」をする中で「勝ち取って行く」という「諸要求貫徹路線」をとりつづけてきた。級委員執行部は現在何故学内に自分たちに対抗するものが出来たのか、自分たちの「政策と方針」の「完備性」にもかかわらず、「学生の立場を守る」彼らの予想を裏切るような敗北を喫したかを、冷静に見つめなければならない。

徹底的な自己批判をする必要があるのではないか。ティーチングループには「全学連」支持派「全学連」には「全学連」の「成功」をおさめ、一定程度の運動の進展をみせている。いわゆる再建「全学連」のもとに集結し、わが学内においても「授業料値上げ反対闘争」、「学食値上げ反対闘争」なるもの、運動論的、組織論的、脆弱性ゆえに部分的勝利は勝ちとれたとしても根本的には敗北してしまつた。「あらゆる要求をもちよ」それを「よりよき学内生活」のために「クラス・サークル」での「民主的な討論」をする中で「勝ち取って行く」という「諸要求貫徹路線」をとりつづけてきた。級委員執行部は現在何故学内に自分たちに対抗するものが出来たのか、自分たちの「政策と方針」の「完備性」にもかかわらず、「学生の立場を守る」彼らの予想を裏切るような敗北を喫したかを、冷静に見つめなければならない。

又、ティーチングループに関心して言えば、彼らに統一してみられる「アンチ民青」的、感情的反動で固つた以外、運動論・組織論的にも何ら統一が見られず「形骸化された自治会活動に創造性を欠いた」といふ点にすぎない。選挙戦においてティーチングループに存在した意志の不統一という最大の脆弱性を、彼ら自身がそのグループ内部で激しいイデオロギー闘争の展開によって、思想的(運動論的にも、組織論的にも)に高めていく事が、今後の彼らの最も重要な課題の一つであろう。しかし、この事は一切が、彼らの活動の今後にかかっており、その立場がとられなかったら、彼ら

のローガンは、まさに「形骸化」した空虚なものとおぼつてしまつておちである。
「全学連」支持派「全学連」がこの選挙にかけ「敗北」をいかに受けとめ、いかにそれを否定的媒介として、現在の自治会活動なり、学生運動なりを止揚し、創造していくか、また、「ティーチングループ」がいかにその空虚なローガンを、現実を鋭くしたスローガンにしていけるかが両派にとって、今後重要な課題であり、問題点であり、そこに、相対立する両派が選挙戦を戦つたという意義が集約されるのではなからうか。

学部増設検討中か?

経営・神学・教養の各学部

教育体制専門委員会第一分會、第二分會の各分會が出た現在、事務機構の改革、管理予算制度の採用と長期総合計画が着々と具体化してきている。

六月には部長会において、新設学部学科の問題が部長から提案された。今後の動きが注目されている。部長会議案として提出されている学部は、経営学部、キリスト教学部、教養学部がある。経営学部新設に関しては、経済学部、社会学部からそれぞれの立場で提案がなされている模様で二つの学部の調整が困難視されている。

江川教授、佐々木元教授 番匠谷名誉教授が逝去



故江川英文氏略歴

大正一四年東京帝国大学法学部法律学科卒、大正一四年東京帝国大学助手、昭和二年東京帝国大学教授、昭和十二年東京帝国大学教授、昭和十四年本学就任、昭和十七年法学部長、大学院法学研究科委員長、昭和三八年ラテンアメリカ研究所長、昭和四一年八月二日逝去



故番匠谷公一氏略歴

大正九年京都帝大文学部ドイツ文学科卒、大正一二年より昭和二年まで大谷大学教授、二十三年より三六年まで日本文学部長、三十六年本学名誉教授、ドイツ文学会の元老で翻訳、著書多数出版、昭和四一年六月一七日東大病院にて逝去

開店一周年記念謝恩セール 店頭価格の25%引 来春卒業の方は特にこの機会を御利用下さい。 立教事業会館内 テーラー 紳士服 双葉

9月20日封切 南洋 太平洋 空青見た見いつ

池袋駅 池袋スカラ座 (971) 1977

